

1. 憲法

1. 次の文章中、□に入る適切な語句を解答欄に記入せよ。(6点)

- (1) 天皇は、法律の定めるところにより、その□アに関する行為を委任することができる。
- (2) 日本国は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、□イたる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。
- (3) 思想及び□ウの自由は、これを侵してはならない。
- (4) 参議院が、衆議院の可決した法律案を受け取つた後、国会休会中の期間を除いて□エに、議決しないときは、衆議院は、参議院がその法律案を否決したものとみなすことができる。
- (5) 内閣総理大臣その他の国務大臣は、□オでなければならない。
- (6) 国費を支出し、又は国が□カを負担するには、国会の議決に基くことを必要とする。

2. 次のア～クのうち正しいものを4つ選び、その記号を解答欄に記入せよ。(4点)

- ア. 天皇は、内閣の指名に基いて、最高裁判所の長たる裁判官を任命する。
- イ. 何人も、損害の救済、公務員の罷免、法律、命令又は規則の制定、廃止又は改正その他の事項に関し、平等に請願する権利を有し、何人も、かかる請願をしたためにいかなる差別待遇も受けない。
- ウ. 私有財産は、適当な補償の下に、これを公共のために用ひることができる。
- エ. 衆議院が解散されたときは、解散の日から四十日以内に、衆議院議員の総選挙を行ひ、その選挙の日から三十日以内に、国会を召集しなければならない。
- オ. 内閣は、衆議院で不信任の決議案を可決し、又は信任の決議案を否決したときは、十日以内に衆議院が解散されない限り、総辞職をしなければならない。
- カ. 下級裁判所の裁判官は、最高裁判所の指名した者の名簿によつて、内閣でこれを任命する。その裁判官は、任期を十年とし、再任されることがある。但し、法律の定める年齢に達した時には退官する。
- キ. すべて皇室財産は、皇室に属する。すべて皇室の費用は、予算に計上して国会の議決を経なければならない。
- ク. この憲法が日本国民に保障する基本的人権は、人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果であつて、これらの権利は、過去幾多の試錬に堪へ、現在及び将来の国民に対し、侵すことのできない不变の権利として信託されたものである。

2. 民法

1. 次の文章中、□に入る適切な語句を解答欄に記入せよ。(6点)

- (1) 法人と理事との利益が相反する事項については、理事は、アを有しない。この場合においては、裁判所は、利害関係人又は検察官の請求により、特別代理人を選任しなければならない。
- (2) 意思表示は、表意者が相手方を知ることができず、又はその所在を知ることができないときは、イによってすることができる。
- (3) 占有者がその占有を妨害されるおそれがあるときは、ウの訴えにより、その妨害の予防又は損害賠償の担保を請求することができる。
- (4) 同一の動産について数個の質権が設定されたときは、その質権の順位は、エによる。
- (5) 債権の目的物が金銭であるときは、債務者は、その選択に従い、各種のオで弁済をすることができる。ただし、特定の種類のオの給付を債権の目的としたときは、この限りでない。
- (6) 当事者的一方が和解によって争いの目的である権利を有するものと認められ、又は相手方がこれを有しないものと認められた場合において、その当事者的一方が従来その権利を有していなかった旨のカ又は相手方がこれを有していた旨のカが得られたときは、その権利は、和解によってその当事者的一方に移転し、又は消滅したものとする。

2. 次のア～クのうち正しいものを4つ選び、その記号を解答欄に記入せよ。(4点)

- ア. 占有保持の訴えは、妨害の存する間又はその消滅した後一年以内に提起しなければならない。ただし、工事により占有物に損害を生じた場合において、その工事に着手した時から六箇月を経過し、又はその工事が完成したときは、これを提起することができない。
- イ. 設定行為で地上権の存続期間を定めなかった場合において、別段の慣習がないときは、地上権者は、いつでもその権利を放棄することができる。ただし、地代を支払うべきときは、一年前に予告をし、又は期限の到来していない一年分の地代を支払わなければならない。
- ウ. 一般の先取特権者は、まず不動産以外の財産から弁済を受け、なお不足があるのでなければ、不動産から弁済を受けることができない。
- エ. 抵当権は、設定行為で定めるところにより、一定の範囲に属する特定の債権を極度額の限度において担保するために設定することができる。
- オ. 申込者は、遅延した承諾を新たな申込みとみなすことができない。
- カ. 売買の目的について権利を主張する者があるために買主がその買い受けた権利の全部又は一部を失うおそれがあるときは、買主は、その危険の限度に応じて、代金の全部又は一部の支払を拒むことができる。ただし、売主が相当の担保を供したときは、この限りでない。
- キ. 不動産の賃貸借は、これを登記したときは、その後その不動産について物権を取

得した者に対しては、その効力を生じない。

ク． 受任者は、特約がなければ、委任者に対して報酬を請求することができない。

3. 商法

1. 次の文章中、□に入る適切な語句を解答欄に記入せよ。(6点)

- (1) 船舶共有者ハ其持分ノ□ニ応シ船舶ノ利用ニ付テ生シタル債務ヲ弁済スル責ニ任ス
- (2) 船長ハ每航海ノ終ニ於テ遅滞ナク其航海ニ関スル□イヲ為シテ船舶所有者ノ承認ヲ求メ又船舶所有者ノ請求アルトキハ何時ニテモ□イノ報告ヲ為スコトヲ要ス
- (3) 傭船者又ハ荷送人ハ船長又ハ之ニ代ハル者ノ請求ニ因リ□ウノ證本ニ署名シテ之ヲ交付スルコトヲ要ス
- (4) 船舶ノ全部ヲ以テ運送契約ノ目的ト為シタル場合ニ於テハ其契約ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス
- ①船舶ガ沈没シタルコト
②船舶ガ修繕スルコト能ハザルニ至リタルコト
③船舶ガ捕獲セラレタルコト
④運送品カ□エニ因リテ滅失シタルコト
- (5) 救助料ニ付キ□オナキ場合ニ於テ其額ニ付キ争アルトキハ危険ノ程度、救助ノ結果、救助ノ為メニ要シタル労力及ヒ費用其他一切ノ事情ヲ斟酌シテ裁判所之ヲ定ム
- (6) 船長カ分配案ノ作成ヲ怠リタルトキハ□カハ海員ノ請求ニ因リ船長ニ対シテ分配案ノ作成ヲ命スルコトヲ得

2. 次のア～クのうち正しいものを4つ選び、その記号を解答欄に記入せよ。(4点)

- ア. 海員カ其職務ヲ行フニ当タリ他人ニ危害ヲ加ヘタル場合ニ於テ船長ハ監督ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス
- イ. 左ノ場合ニ於テハ船舶ハ修繕スルコト能ハサルニ至リタルモノト看做ス
- ①船舶カ其現在地ニ於テ修繕ヲ受クルコト能ハス且其修繕ヲ為スヘキ地ニ到ルコト能ハサルトキ
②修繕費カ船舶ノ価額ノ三分ノ二ニ超ユルトキ
- ウ. 陸揚港ニ於テハ船長ハ数通ノ船荷証券中ノ一通ノ所持人力運送品ノ引渡ヲ請求シタルトキト雖モ其引渡ヲ拒ムコトヲ得ス
- エ. 発航前ニ於テハ旅客ハ運送賃ノ全額ヲ支払ヒテ契約ノ解除ヲ為スコトヲ得
- オ. 積荷ノ実価ヨリ高キ価額ヲ記載シタルトキハ其積荷ノ利害關係人ハ其記載シタル価額ニ応シテ共同海損ヲ分担スルコトヲ要セス
- カ. 左ノ場合ニ於テハ救助者ハ救助料ヲ請求スルコトヲ得ス
- ①故意又ハ過失ニ因リテ海難ヲ惹起シタルトキ
②正当ノ事由ニ因リテ救助ヲ拒マレタルニ拘ハラス強ヒテ之ニ從事シタルトキ
③救助シタル物品ヲ隠匿シ又ハ濫ニ之ヲ処分シタルトキ
- キ. 船舶ノ存否カ六ヶ月間分明ナラサルトキハ其船舶ハ行方ノ知レサルモノトス
- ク. 船舶ノ先取特權ハ抵當權ニ先チテ之ヲ行フコトヲ得

4. 国土交通省設置法

1. 次に掲げる事務を所管している本省と地方運輸局の内部組織の名称をそれぞれA群、B群から選び、その記号を解答欄に記入せよ。(5点)

- (1) 港湾運送及び港湾運送事業の発達、改善及び調整に関すること。
- (2) 海技士及び小型船舶操縦士の免許、船舶職員及び小型船舶操縦者の資格及び定員並びに水先に関すること。
- (3) 船舶の航行の安全の確保及び海洋汚染等の防止に係る外国船舶の監督に関すること。
- (4) 船員の失業対策及び船員の職業紹介、職業の指導、職業の補導その他船員の労務の需給調整に関すること。
- (5) 造船に関する事業の発達、改善及び調整に関すること。

【A群】(本省)

- | | | |
|-------------|-------------|-------------|
| ア. 海事局検査測度課 | イ. 港湾局港湾経済課 | ウ. 港湾局振興課 |
| エ. 海事局海技資格課 | オ. 海事局造船課 | カ. 海事局船員政策課 |

【B群】(地方運輸局)

- | | |
|---------------|-----------------|
| キ. 海事振興部又は海事部 | ク. 海上安全環境部又は海事部 |
|---------------|-----------------|

2. 次に掲げる地を管轄する国土交通省の地方支分部局である地方運輸局の名称及び位置(都道府県名)を例にならって解答欄に記入せよ。(5点)

- (1) 福島県
- (2) 山梨県
- (3) 三重県
- (4) 熊本県
- (5) 滋賀県

(例) (8)鳥取県

番号	(8)
名称	中国運輸局
位置	広島県

5. 船員法

1. 次の文章中、□に入る適切な語句又は数字を解答欄に記入せよ。(12点)

- (1) 総トン数□アトン未満の船舶、また、命令で定める総トン数□イトン未満の漁船に乗り組む船員は船員法の規定の適用を受けない。
- (2) □ウ(□ウ)が届け出ることができないときは□エ)は、雇入契約の成立、終了、□オ又は変更があったときは、遅滞なく、□カを提示して、最寄りの地方運輸局等の事務所に届け出なければならない。ただし、□キもしくは□クの変更に伴い労働条件が変更された場合は、当該変更について雇入契約の変更の届出をすることを要しない。
- (3) 船舶所有者は、海員の労働時間が1週間において□ケ時間を超える場合又は海員に1週間において少なくとも1日の休日を与えることができない場合には、補償休日を与えなければならない。また、海員が補償休日において作業に従事した場合は、通常の労働日の報酬の計算額の□コ割増の額以上の割増手当を支払わなければならない。
- (4) 船員の給料その他の報酬の最低基準は、□サ法の規定による。
- (5) 就業規則で定める基準に達しない労働条件を定める雇入契約は、その部分については、□シである。

2. 次の文章のうち正しいものには○を、正しくないものには×を解答欄に記入せよ。

(5点)

- (1) 船員の労働関係には船員法が適用されるので、労働基準法の規定は一切適用されない。
- (2) 船長及び海員の1週間当たりの労働時間は、基準労働期間について平均40時間以内である。
- (3) 有給休暇を与るべき時期及び場所については、船舶所有者と船員との協議による。
- (4) 水産高校の生徒が実習船に乗り組む場合は、船員手帳を受有する必要はない。
- (5) 船員が負傷又は疾病により職務に堪えないため、船舶所有者が雇入契約を解除した場合、船舶所有者は、当該船員に1カ月分の給料と同額の雇止手当を支払わなければならない。

3. 国土交通大臣により指定された市町村において手続きを行うことができる船員法の規定による事務の内容を3つ挙げよ。(3点)

6. 船員職業安定法

1. 次の文章中、□に入る適切な語句又は数字を下欄の語群から選び、その番号を解答欄に記入せよ。(5点)

- (1) 船員職業安定法で「派遣船員」とは、船舶所有者が□雇用する船員であって、船員派遣の対象となるものをいう。
- (2) 船員職業安定法第60条第2項の船員派遣事業の許可の有効期間の更新を受けようとする者は、当該許可の有効期間が満了する日の□日前までに、船員派遣事業許可有効期間更新申請書を国土交通大臣に提出しなければならない。
- (3) □等は、国土交通大臣の許可を受けたときは、無料の船員労務供給事業を行うことができる。
- (4) 無料の船員労務供給事業の許可の有効期間は□年とする。
- (5) 無料船員職業紹介許可事業者は、国土交通大臣の許可を受けたときは、□才、日用品の販売及び宿泊所の業務を行うことができる。

①公益法人	②船主団体	③労働組合	④飲食店	⑤酒類の販売
⑥両替	⑦30	⑧45	⑨60	⑩臨時
⑪期間	⑫常時	⑬3	⑭5	⑮10

2. 次の文章のうち正しいものには○を、正しくないものには×を解答欄に記入せよ。
(5点)

- (1) 船舶所有者は、その被用者以外の者に報酬を与えて船員の募集を行わせようとするときは、国土交通大臣に届け出なければならない。
- (2) 船員職業安定法で「無料船員職業紹介事業者」とは、無料の船員職業紹介事業の許可を受けて、又は学校等の行う無料の船員職業紹介事業の届出をして、無料の船員職業紹介事業を行う者をいう。
- (3) 船員職業安定法第60条第2項の規定による船員派遣事業の許可の有効期間の更新を受けようとする者は、国土交通省令で定める手数料として、七万三千三百円に船員派遣事業を行う事業所の数を乗じて得た額を納付しなければならない。
- (4) 無料船員職業紹介許可事業者は、告示で定める帳簿書類を備え付け、用済後5年間、これを保存しなければならない。
- (5) 船員派遣をする事業主が外国船舶派遣をする場合においては、船員職業安定法の規定は、適用しない。

7. 船舶職員及び小型船舶操縦者法

1. 次の文章中、□に入る適切な語句を解答欄に記入せよ。(8点)

- (1) 船舶職員及び小型船舶操縦者法は、船舶職員として船舶に乗り組ませるべき者の資格並びに小型船舶操縦者として小型船舶に乗船させるべき者の資格及び□ア等を定め、もって船舶の□イを図ることを目的とする。
- (2) 船舶職員及び小型船舶操縦者法の規定のうち船舶所有者に関する規定は、船舶共有の場合には船舶管理人に、船舶貸借の場合には船舶□ウに適用する。
- (3) 海技士は、本籍の都道府県名若しくは□エに変更を生じたとき、又は海技免状の記載事項に誤りがあることを発見したときは、遅滞なく、登録事項又は海技免状の訂正を申請しなければならない。
- (4) 海技士は、海技免状を滅失し、又は□オしたときは、海技免状再交付申請書を国土交通大臣に提出し、海技免状の再交付を申請することができる。
- (5) 二以上の海技免状の有効期間の更新を同時に申請する者は、申請により、当該二以上の海技免状の有効期間が更新された場合における当該海技免状の有効期間の起算日のうち最も□カ到来することとなる日を、これらの海技免状の有効期間の起算日とすることができます。
- (6) 六級海技士（航海）の資格についての免許を受けようとする者が修了していなければならない免許講習の課程は、レーダー観測者講習、□キ講習及び□ク講習である。

2. 次の文章中、□に入る適切な語句又は数字を解答欄に記入せよ。(6点)

海技試験（航海）を申請する者は、海技試験申請書に写真□ア葉及び以下の（1）～（9）の書類を添えて、国土交通大臣に提出しなければならない。

- (1) □イ若しくは戸籍記載事項証明書又は本籍の記載のある□ウの写し
- (2) 海技士にあっては、□エの写し
- (3) 学校卒業（修了）者に対する□オの特例を受ける者にあっては、卒業証書の写し若しくは卒業証明書又は修了証書の写し若しくは修了証明書及び当該学校における修得単位証明書
- (4) 船舶職員及び小型船舶操縦者法施行規則第32条の規定による乗船履歴の証明書
- (5) 医師により試験開始期日前□カ以内に受けた検査の結果を記載した海技士身体検査証明書
- (6) 身体検査の省略を受けようとする者にあっては、身体検査第一種合格証明書又は身体検査第二種合格証明書
- (7) 筆記試験に合格している者にあっては、筆記試験合格証明書
- (8) 一部の試験科目について筆記試験の免除を受けようとする者にあっては、当該科目に係る筆記試験科目免除証明書
- (9) 船舶職員及び小型船舶操縦者法施行規則第55条の規定による学科試験の免除を受けようとする者にあっては、船舶職員養成施設の発行する修了証明書

3. 船舶職員及び小型船舶操縦者法第23条の36に規定された小型船舶操縦者が遵守しなければならない事項を3つあげよ。(3点)

4. 五級海技士(航海)の試験を受けるには、総トン数10トン以上の船舶に乗り組み3年以上船舶の運航に携わった履歴、又は、総トン数20トン以上の船舶に六級海技士(航海)の資格で船長又は航海士として1年以上乗組んだ履歴が必要である。

今ここに、

- ① 総トン数5トンの船舶に、一級小型船舶操縦士の資格で、船長として1年乗船した履歴
- ② 総トン数15トンの船舶に乗り組み、10ヶ月船舶の運航に携わった履歴
- ③ 総トン数50トンの船舶に、六級海技士(航海)の資格で、一等航海士として8ヶ月乗組んだ履歴

の3つの異なる乗船履歴を有する者の場合

- (1) この者は、五級海技士(航海)の試験を受けるのに必要な乗船履歴を有しているか否か。有しているなら○、有していないなら×を解答欄に記入せよ。(1点)
- (2) その理由を述べよ。(2点)

8. 海上運送法

1. 次の文章中、□に入る適切な語句を解答欄に記入せよ。(10点)

- (1) この法律において「海上運送事業」とは、船舶運航事業、□ア、□イ及び海運代理店業をいう。
- (2) 一般旅客定期航路事業者は、旅客の運賃、国土交通省令で定める手荷物の運賃及び自動車航送をする一般旅客定期航路事業者にあつては当該自動車航送に係る運賃であつて指定区間に係るものについて当該運賃の□ウを定め、国土交通省令の定める手続により、国土交通大臣の□エを受けなければならない。これを変更しようとするときも同様である。
- (3) 国土交通大臣は、一般旅客定期航路事業者の事業について利用者の利便その他公共の利益を阻害している事実があると認めるときは、当該一般旅客定期航路事業者に対し、次の各号に掲げる事項を命ずることができる。
- ①運賃の□ウを変更すること。
 - ②運送約款を変更すること。
 - ③事業計画を変更すること。
 - ④□オを変更すること。
- (4) 国土交通大臣は、旅客の利益を保護するため必要があると認めるときは、一般旅客定期航路事業者に対し、当該一般旅客定期航路事業者が旅客の運送に関し支払うことのある損害賠償のため□カを締結することを命ずることができる。
- (5) 対外旅客定期航路事業を営む者は、国土交通省令の定めるところにより、旅客及び手荷物の運賃及び料金を定め、これを実施する前に、□キしなければならない。これを変更しようとするときも同様である。
- (6) 旅客不定期航路事業者が、その事業を廃止したときは、国土交通省令の定める手続により、その事業の廃止の日から□クに、国土交通大臣にその旨を届け出なければならない。
- (7) 国土交通大臣は、定期航路事業者（定期航路事業を営もうとする者を含む。）と他の船舶運航事業者との間に□ケの運送について過度の競争を生じ、又は生ずるおそれがある場合において、その競争が定期航路事業の健全な発達を阻害するおそれがあると認めるときは、当事者に対して競争の停止又は防止のため必要な措置をとるべきことを□コすることができます。

9. 港湾運送事業法

1. 次の文章のうち正しいものには○を、正しくないものには×を解答欄に記入せよ。

(5点)

- (1) 港湾運送事業法は、港湾運送に関する秩序を確立し、港湾運送事業の健全な発達を図り、もつて公共の福祉を増進することを目的とする。
- (2) 港湾運送事業法上の「港湾」の水域は、政令で定めるものを除くほか、港則法に基づく港の区域をいうとされている。
- (3) 檜量事業を営もうとする者は、港湾ごとに、国土交通大臣の許可を受けなければならない。
- (4) 港湾運送事業者は、当該港湾運送が法令の規定、公の秩序又は善良の風俗に反するとき等を除いて、港湾運送を拒絶してはならない。
- (5) 港湾荷役事業者は、他の港湾運送事業者から引き受けた港湾運送について、少なくとも当該月中に引き受けた港湾運送の70%以上の貨物量を自ら行わなければならない。

2. 次の文章中、[]に入る適切な語句を下欄の語群から選び、その番号を解答欄に記入せよ。(5点)

- (1) 港湾運送事業の許可を取り消された者は、その取消しの日から[ア]を経過しなければ、新たに港湾運送事業の許可を受けることができない。
- (2) 港湾運送事業者は、[イ]並びに港湾運送約款を営業所において利用者の見やすいように掲示しなければならない。
- (3) 一般港湾運送事業者は、港湾運送約款を定め、国土交通大臣の[ウ]を受けなければならない。
- (4) 港湾運送事業者は、天災その他やむを得ない事由がある場合の外、[エ]に定めるところに従い、その業務を行わなければならない。
- (5) 国土交通大臣は、港湾運送事業の許可の取消し若しくは事業の停止又は港湾運送事業における運賃及び料金に関する変更命令に関しては、[オ]に諮らなければならない。

- | | | | | | | |
|-------------|-------|--------|--------|-----------|-----|-----|
| ①運賃及び料金 | ②事業計画 | ③免許 | ④労働者名簿 | ⑤3年 | ⑥4年 | ⑦5年 |
| ⑧氏名又は名称及び住所 | ⑨許可 | ⑩運輸審議会 | ⑪認可 | ⑫港湾安定化協議会 | | |
| ⑬港湾雇用安定等計画 | | | | | | |

10. 内航海運業法

1. 次の文章中、□に入る適切な語句を解答欄に記入せよ。(10点)

- (1) この法律は、内航運送の円滑かつ適確な運営を確保することにより、□アを確保するとともに、内航海運業の健全な発達を図り、もつて□イを増進することを目的とする。
- (2) この法律において「内航海運業」とは、内航運送をする事業（次に掲げる事業を除く。）又は内航運送の用に供される船舶の貸渡し（期間傭船を含み、主として□ウ事業法に規定する□ウ事業（同法第33条の2第1項の運送をする事業を含む。）の用に供される船舶の貸渡しを除く。）をする事業をいう。
①海上運送法に規定する旅客定期航路事業及び旅客不定期航路事業
②□ウ事業法に規定する□ウ事業
③□ウ事業法第2条第4項の規定により指定する港湾以外の港湾において同法第3条各号に掲げる事業に相当する事業を営む事業
- (3) 総トン数100トン以上又は長さ30メートル以上の船舶による内航海運業を営もうとする者は、国土交通大臣の行う□エを受けなければならない。
- (4) 内航海運業者（船舶の貸渡しをする事業のみを行う者を除く。）は、不特定多数の荷主に係る物品の運送に従事するものとして国土交通省令で定める船舶により内航運送をする事業を行おうとするときは、当該内航運送をする事業に関し、□オを定め、その実施前に、国土交通大臣に届け出なければならない。これを変更しようとするときも、同様とする。
- (5) 内航海運業者は、□カ規程を定め、国土交通省令で定めるところにより、国土交通大臣に届け出なければならない。これを変更しようとするときも、同様とする。
- (6) 内航海運業者は、□キ管理者及び□ク管理者を選任しなければならない。
- (7) 国土交通大臣は、この法律の施行に必要な限度において、内航海運業者若しくは第3条第2項の届出をした者に対してその事業に関し国土交通省令で定めるところにより□ケをさせ、又はその職員に内航海運業者若しくは同項の届出をした者の営業所若しくはその事業の用に供する船舶に立ち入り、帳簿書類その他の物件を□コさせることができる。

11. 港則法

1. 次の文章中、□内に入る適切な語句又は数字を解答欄に記入せよ。（10点）

- (1) この法律は、港内における船舶交通の安全及び港内の□アを図ることを目的とする。
- (2) □イ以外の船舶は、港則法第4条、第8条第1項、第10条及び第23条の場合を除いて、港長の許可を受けなければ、同法第5条第1項の規定により停泊した□ウ外に移動し、又は港長から指定されたびよう地から移動してはならない。但し、海難を避けようとする場合その他やむを得ない事由のある場合は、この限りでない。
- (3) 爆発物その他の危険物（当該船舶の使用に供するものを除く。）を積載した船舶は、特定港に入港しようとするときは、港の境界外で港長の□エを受けなければならない。
- (4) 特定港内において使用すべき□オ信号を定めようとする者は、港長の許可を受けなければならない。
- (5) 特定港内において端艇競争その他の□カをしようとする者は、予め港長の許可を受けなければならない。
- (6) 総トン数が国土交通省令の定めるトン数以上である船舶は、国土交通省令の定める水路を航行しようとするときは、国土交通省令の定めるところにより、港長に当該水路を航行する□キを通報しなければならない。
- (7) 総トン数□クトン未満の日本船舶は、特定港に入港したとき、入港届を港長に提出することを要しない。
- (8) 総トン数□ケトン（関門港若松区においては、総トン数□コトン）以上の船舶は、国土交通省令の定める特定港内に停泊しようとするときは、けい船浮標、さん橋、岸壁その他船舶がけい留する施設にけい留する場合の外、港長からびよう泊すべき場所の指定を受けなければならない。

12. 海上交通安全法

1. 次の文章中、□内に入る適切な語句又は数字を解答欄に記入せよ。（10点）

- (1) この法律は、船舶交通が□アする海域における船舶交通について、特別の交通方法を定めるとともに、その危険を防止するための規制を行なうことにより、船舶交通の安全を図ることを目的とする。
- (2) この法律は、東京湾、□イ（□イの湾口に接する海域及び三河湾のうち□イ□に接する海域を含む。）及び□ウのうち次に掲げる海域以外の海域に適用するものとし、これらの海域と他の海域（次に掲げる海域を除く。）との境界は、政令で定める。
- ①港則法に基づく港の区域
 - ②港則法に基づく港以外の港である港湾に係る港湾法第2条第3項に規定する港湾区域
 - ③漁港漁場整備法第6条第1項から第4項までの規定により市町村長、都道府県知事又は農林水産大臣が指定した漁港の区域内の海域
 - ④陸岸に沿う海域のうち、漁船以外の船舶が通常航行していない海域として政令で定める海域
- (3) 海上保安庁長官は、巨大船の航路における航行に伴い生ずるおそれのある船舶交通の危険を防止するため必要があると認めるときは、当該巨大船の船長に対し、国土交通省令で定めるところにより、□エの変更、□オの配備その他当該巨大船の運航に関し必要な事項を□カすることができる。
- (4) 航路及びその周辺の海域における工事等の行為の内、許可を要しない行為としては、海面の最高水面からの高さが□キメートルをこえる空域における行為、海底下□クメートルをこえる地下における行為等が定められている。
- (5) この法律に定める航路を航行しようとする巨大船の船長は、航路外から航路に入ろうとする日の□ケまでに、船舶の名称等を当該航路を担当する海上交通センターの長に対して通報しなければならない。
- (6) ばら積みの引火性液体類を積載する総トン数□コトン以上の船舶は、危険物積載船に該当する。

13. 海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律

1. 次の文章中、□に入る適切な語句を下欄の語群から選び、その記号を解答欄に記入せよ。(5点)

- (1) 海洋の汚染の防止に関する試験、研究又は調査のために、あらかじめ□の承認を受けて、船舶から油を排出しようとする者は、当該船舶ごとに、承認申請書を提出しなければならない。
- (2) 船舶から有害液体物質を排出しようとする場合に実施する事前処理が基準に適合するものであることについて確認する登録確認機関が、その氏名、名称、住所等を変更しようとするときは、変更しようとする日の□前までに、海上保安庁長官に届け出なければならない。
- (3) 船舶所有者は、船舶を一定の廃棄物の排出に常用しようとするときは、当該船舶について□の登録を受けなければならない。
- (4) 国際海洋汚染等防止証書の有効期間の延長を申請しようとする者は、海洋汚染等防止証書等有効期間延長申請書を□に提出しなければならない。
- (5) 有効な海洋汚染等防止証書の交付を受けていない検査対象船舶の船舶所有者は、当該検査対象船舶を臨時に航行の用に供しようとするときは、当該検査対象船舶に設置された海洋汚染防止設備等及び大気汚染防止検査対象設備並びに当該検査対象船舶に備え置き、又は掲示された海洋汚染防止緊急措置手引書等について□の行う検査を受けなければならない。

(1) (イ)国土交通大臣	(2) (イ) 2週間	(3) (イ)国土交通大臣
(ロ)環境大臣	(ロ) 30日	(ロ)海上保安庁長官
(ハ)海上保安庁長官	(ハ) 60日	(ハ)地方運輸局長
(4) (イ)海上保安庁長官又は日本の領事官		(5) (イ)国土交通大臣
(ロ)地方運輸局長又は海上保安庁長官		(ロ)環境大臣
(ハ)地方運輸局長又は日本の領事官		(ハ)海上保安庁長官

2. 次の文章のうち、正しいものには○を、正しくないものには×を解答欄に記入せよ。(5点)

- (1) 港湾管理者又は漁港管理者は、廃油処理事業を行なおうとするときは、その廃油処理施設の設置工事の開始日（工事を要しないときは、その事業の開始の日）の三十日前までに、その旨を国土交通大臣に届け出なければならない。

- (2) 海洋施設から一定の廃棄物を排出しようとする者は、当該廃棄物の海洋施設への積込み前（当該廃棄物が当該海洋施設内において生じたものであるときは、その排出前）に、その排出に関する計画が実施計画に適合するものであることについて、確認の申請書を提出して、環境大臣の確認を受けなければならない。
- (3) 廃油処理規程の設定の届出をしようとする港湾管理者及び漁港管理者以外の廃油処理事業者は、当該廃油処理規程の実施予定の年月日の30日前までに、届出書を提出しなければならない。
- (4) 船舶に設置するふん尿及び汚水処理装置、粉碎装置又はオイルフェンス、油処理剤、油吸着剤若しくは油ゲル化剤を製造する者は、その型式ごとに環境大臣の型式承認を受けることができる。
- (5) 船舶により未査定液体物質を輸送しようとする者は、あらかじめ、その旨を環境大臣に届け出なければならない。

14. 船舶法

1. 次の文章中、□に入る適切な語句を下欄の語群から選び、その番号を解答欄に記入せよ。なお、語群の番号は複数回使用することができる。(10点)

- (1) 日本船舶ノ所有者ハアヲ為シタル後イヲ管轄スル管海官庁ニ備ヘタル船舶原簿ニ登録ヲ為スコトヲ要ス
- (2) 登録シタル事項ニ変更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其ウヨリエ内ニ変更ノ登録ヲ為スコトヲ要ス
- (3) 日本船舶カ外国ノ港ニ碇泊スル間ニ於テ船舶国籍証書カ滅失若クハ毀損シ又ハ之ニ記載シタル事項ニ変更ヲ生シタルトキハオハ其地ニ於テカヲ請受クルコトヲ得
- (4) 日本船舶カ滅失若クハ沈没シタルトキ、解撤セラレタルトキ又ハ日本ノ国籍ヲ喪失シ若クハ第二十条ニ掲クル船舶トナリタルトキハ船舶所有者ハ其キヨリク内ニ抹消ノ登録ヲ為シ且遲滞ナクケヲ返還スルコトヲ要ス船舶ノ存否カ三個月間分明ナラサルトキ亦同シ
- (5) 外国ニ於テ交付スルコノ有効期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

1. 船舶国籍証書	2. 仮船舶国籍証書	3. 船舶件名書	4. 総トン数計算書
5. 国際トン数証書	6. 登録事項証明書	7. 登記	8. 登録
9. 測度	10. 建造	11. 進水	12. 船籍港
13. 所有者ノ所在地	14. 船舶ノ取得地	15. 船舶ノ建造地	
16. 事実ヲ知リタル日	17. 事実ガ生ジタ日	18. 五日間	
19. 十日間	20. 一週間	21. 二十日間	22. 二週間
23. 造船者	24. 船長	25. 船舶所有者	26. 船舶借受者

2. 次の文章中、□に入る適切な語句を下欄の語群から選び、その番号を解答欄に記入せよ。なお、語群の番号は複数回使用することができる。(10点)

- (1) 日本船舶のアは日本国内に船籍港を定め、船籍港を管轄する管海官庁に総トン数の測度を申請しなければならない。

- (2) 船舶の所有者は国土交通大臣が定める期日までに、イをその船舶の船籍港を管轄する管海官庁（運航上の都合により事由がある場合は最寄りの管海官庁）に提出し、検認を受けなければならない。
- (3) 日本船舶は法令に特段の規定がある場合を除き、船舶国籍証書又はウの交付申請を行い、交付を受けた後でなければ、日本の国旗を掲げ、航行することはできない。
- (4) 船舶国籍証書を滅失したときは、船舶所有者はその事実を知った日からエに再交付申請を行い、交付を受けなければならない。
- (5) 外国において船舶を取得した者は、その取得地においてオの発給を請求し、交付を受けることができる。
- (6) 船籍港は市町村の名称とするが、カにあっては、東京都とする。
- (7) 総トン数キの船舶は信号符字を点附しなければならない。
- (8) 船舶国籍証書の記載事項の変更に伴う当該証書の書換申請を行う者は、ク申請と同時にすることとされている。
- (9) 船名は、原則としてケの両舷の外側に標示しなければならない。
- (10) 船舶の登録申請時（電子申請を除く）における手数料は、手数料金額に相当するコを登録手数料納付書に貼って納付しなければならない。

1. 船舶国籍証書	2. 仮船舶国籍証書	3. 船舶件名書	4. 登録事項証明書
5. 船長	6. 所有者	7. 借受者	8. 1週間以内
9. 10日以内	10. 2週間以内	11. 3週間以内	12. 20トン以上
13. 100トン以上	14. 200トン以上	15. 変更の登録	16. 抹消の登録
17. 登記	18. 船首	19. 船舶中央部	20. 船尾
21. 郵便切手	22. 収入印紙	23. 振込済票	24. 東京都全域
25. 東京都特別区	26. 埼玉県		

15. 船舶安全法

1. 次の文書中、[]に入る適切な語句を解答欄に記入せよ。(20点)

- (1) [ア]検査とは、[イ]を受有せざる船舶を臨時に航行の用に供するとき行う検査である。
- (2) 左ニ掲グル船舶ハ国土交通省令ノ定ムル所ニ依リ[ウ]ヲ標示スルコトヲ要ス但シ潜水船其ノ他国土交通大臣ニ於テ特ニ[ウ]ヲ標示スル必要ナシト認ムル船舶ハコノ限ニ在ラズ
① [エ]又ハ[オ]ヲ航行区域トスル船舶
② [カ]ヲ航行区域トスル長サ[キ]メートル以上ノ船舶
③ 総噸数二十噸以上ノ[ク]
- (3) 管海官庁ハ定期検査ニ合格シタル船舶ニ対シテハソノ航行区域（漁船ニ付テハ[ケ]）、最大搭載人員、[コ]及ビ満載喫水線ノ位置ヲ定メ船舶検査証書及船舶検査済票（小型船舶ニ限ル）ヲ交付スベシ
- (4) [サ]ハ本法ニ依リ其ノ[シ]ヲ保持シ且[ス]ノ安全ヲ保持スルニ必要ナル施設ヲ為スニ非ザレバ之ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得ズ
- (5) 第二十五条の六十九及第二十五条の七十二於テ準用スル第二十五条の四十七ノ規定ニ依リ国土交通大臣ノ登録ヲ受ケタル[セ]（以下単ニ[セ]ト称ス）ノ検査ヲ受ケ[ソ]ノ登録ヲ為シタル船舶ニシテ[タ]ニ非ザルモノハ其ノ[ソ]ヲ有スル間第二条第一項各号ニ掲グル事項及満載喫水線ニ關シ[チ]以外ノ管海官庁ノ検査（国土交通省令ヲ以テ定ムルモノヲ除ク）ヲ受ケ之ニ合格シタルモノト看做ス
- (6) 管海官庁ノ検査又ハ検定ヲ受ケタル者検査又ハ検定ニ対シ不服アルトキハ検査又ハ検定ノ結果ニ關スル通知ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ起算シ[ツ]ニ其ノ事由ヲ具シ国土交通大臣ニ再検査又ハ再検定ヲ申請シ再検査又ハ再検定ニ対シ不服アルトキハ其ノ取消ノ訴ヲ提起スルコトヲ得
- (7) 船舶乗組員[テ]ノ船舶ニ在リテハ其ノ二分ノ一以上、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ乗組員[ト]ガ国土交通省令ノ定ムル所ニ依リ当該船舶ノ堪航性又ハ居住設備衛生設備其ノ他ノ人命ノ安全ニ關スル設備ニ付重大ナル欠陥アル旨ヲ申立テタル場合ニ於テハ管海官庁ハ其ノ事実ヲ調査シ必要アリト認ムルトキハ第十二条第三項ノ処分ヲ為スコトヲ要ス

16. 船舶のトン数の測度に関する法律

1. 次の文章中、□に入る適切な語句を下欄の語群から選び、番号を解答欄に記入せよ。(10点)

- (1) 国際総トン数は、条約及び条約の附属書の規定に従い、主として□アに従事する船舶について、その□イを表すための指標として用いられる指標とする。
- (2) この法律において「□ウ」とは、外板、仕切り（可動式のものを含む。）若しくは隔壁又は甲板若しくは覆い（天幕を除く。）により閉囲されている船舶内のすべての場所をいう。
- (3) □エは、船舶の航行の安全を確保することができる限度内における貨物等の最大積載量を表すための指標として用いられる指標とする。
- (4) 長さ□オ以上の日本船舶の船舶所有者（当該船舶が共有されているときは船舶管理人、当該船舶が貸し渡されているときは船舶借入人。以下同じ。）は、国土交通大臣から□カの交付を受け、これを□キに備え置かなければ、当該船舶を国際航海に従事させてはならない。
- (5) 船舶所有者は、国際トン数証書の記載事項について変更があつたときは、その変更があつた日から□ク以内に、国土交通大臣に対し、その□ケを申請しなければならない。
- (6) 船舶所有者は、国際トン数証書が滅失し、若しくは損傷し、又はその識別が困難となつたときは、国土交通大臣に対し、その□コを申請することができる。

1.国際航路	2.国際航海	3.大きさ	4.重さ
5.閉囲場所	6.除外場所	7.総トン数	8.純トン数
9.載貨重量トン数	10.十二メートル	11.二十メートル	12.二十四メートル
13.船舶国籍証書	14.総トン数証書	15.責任トン数証書	16.国際トン数証書
17.船長室内	18.操舵室内	19.船舶内	20.一週間
21.二週間	22.十日	23.修正	24.再交付
25.訂正	26.書換え		

17. 造船法

1. 次の文章中、□に入る適切な語句を解答欄に記入せよ。(10点)

(1) 造船法第2条第1項の規定に基づく許可を受けた施設を所有し、又は借り受けている者が、当該施設において、船舶の製造又は修繕に必要な造船台、ドック、引揚船台等の設備であって国土交通省令で定めるものを新設し、増設し、又は□アしようとするときは、国土交通省令の定める手続きに従い、国土交通大臣の許可を受けなければならない。

また、この許可を受けた者は、その許可に係る工事を完了したときは、その日から□イ以内に、その旨を国土交通大臣に届け出なければならない。

(2) 船舶の製造のための船こくの取付け及び□ウのとう載の用以外の用のみに供するドック（きょ底平たん部の長さが□エ以上のものに限る。）を新設しようとするときには許可を要する。

(3) □オ報告書は、□カの船舶の製造又は修繕をする事業を営んでいる者であつて、造船法第2条第1項の規定に基づく許可を受けた施設を所有し、又は借り受けている者が、毎年2回、国土交通大臣に次の事項を報告するものである。

- ①生産高
- ②□キ
- ③工事時間数
- ④鋼材搭載重量
- ⑤従業員数

(4) □カの船舶の製造又は修繕をする事業の開始の届出をしようとする者は、工場ごとに、届出書に、事業計画書、工場の位置及びその設備の配置を示す図面を添えて、その事業の開始の日から□ク以内に提出するものとする。

(5) 造船法に規定する国土交通大臣の許可権限のうち、□ケにおける陸上耐圧部の長さが□コ未満の造船台若しくは引揚船台又はきょ底平たん部の長さが□コ未満のドックに係る許可権限は、所轄地方運輸局長に委任されている。

18. 国際航海船舶及び国際港湾施設の保安の確保等に関する法律

1. 次の国際航海日本船舶の保安の確保のために必要な措置に関する文書中、□に入る適切な語句又は数字を解答欄に記入せよ。(10点)

- (1) 国際航海日本船舶の□アは、当該国際航海日本船舶に、□イ(船舶に対する危害行為が発生した場合に、速やかにその旨を□ウに伝達する機能を有する装置をいう。)その他国土交通省令で定める船舶の保安の確保のために必要な装置を設置しなければならない。
- (2) 国際航海日本船舶の□アは、国土交通省令で定めるところにより、□エ(当該国際航海日本船舶の保安の確保のために必要な制限区域の設定及び管理、当該国際航海日本船舶の周囲の監視、積荷及び船用品の管理その他の当該国際航海日本船舶について国土交通大臣が設定する□オに対応して当該国際航海日本船舶の保安の確保のためにとるべき国土交通省令で定める措置をいう。以下同じ。)を実施しなければならない。
- (3) 国際航海日本船舶の□アは、当該国際航海日本船舶に係る保安の確保に関する業務を統括管理させるため、当該国際航海日本船舶の□カ以外の者であって、船舶の保安の確保に関する知識及び能力について国土交通省令で定める要件を備えるもののうちから、国土交通省令で定めるところにより、□キを選任しなければならない。
- (4) 国際航海日本船舶の□アは、当該国際航海日本船舶に係る保安の確保に関する業務を当該国際航海日本船舶において管理させるため、当該国際航海日本船舶の□カであって、国土交通大臣の行う船舶の保安の確保に関する講習を修了したもののうちから、国土交通省令で定めるところにより、□クを選任しなければならない。
- (5) 国際航海日本船舶の□アは、船舶保安記録簿をその最後の記載をした日から□ケ年間当該国際航海日本船舶内に保存しなければならない。
- (6) 国際航海日本船舶の□クは、□コに定められた事項を、当該国際航海日本船舶の□カに周知させなければならない。

1. 憲法 模範解答

受 験 地		受験番号		氏 名	
-------	--	------	--	-----	--

採 点	点
-----	---

1.

ア	イ	ウ	エ
国事	国権の発動	良心	六十日以内
才	力		
文民	債務		

2.

ア	エ	オ	力
---	---	---	---

2. 民法 模範解答

受 験 地		受験番号		氏 名	
-------	--	------	--	-----	--

採 点	点
-----	---

1.

ア	イ	ウ	エ
代理権	公示の方法	占有保全	設定の前後
オ	力		
通貨	確証		

2.

イ	ウ	力	ク
---	---	---	---

3. 商法 模範解答

受 験 地		受験番号		氏 名	
-------	--	------	--	-----	--

採 点	点
-----	---

1.

ア	イ	ウ	エ
価格	計算	船荷証券	不可抗力
才	力		
特約	管海官庁		

2.

ウ	カ	キ	ク
---	---	---	---

4. 国土交通省設置法 模範解答

受 験 地		受 験 番 号		氏 名	
-------	--	---------	--	-----	--

採 点	点
-----	---

1.

	A 群	B 群	(2)	A 群	B 群	(3)	A 群	B 群
	イ	キ		エ	ク		ア	ク
(4)	A 群	B 群	(5)	A 群	B 群			
	力	キ		才	キ			

2.

番 号	(1)	(2)	(3)
名 称	東北運輸局	関東運輸局	中部運輸局
位 置	宮城県	神奈川県	愛知県

番 号	(4)	(5)
名 称	九州運輸局	近畿運輸局
位 置	福岡県	大阪府

5. 船員法 模範解答

受 験 地		受験番号		氏 名	
-------	--	------	--	-----	--

採 点	点
-----	---

1.

ア	イ	ウ	エ
5	30	船長	船舶所有者
オ	力	キ	ク
更新	海員名簿	労働協約	就業規則
ケ	コ	サ	シ
40	4	最低賃金	無効

2.

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
×	×	○	○	×

3.

- ・航行に関する報告（船員法第19条の規定による報告）の受理に関すること。
- ・雇入契約の成立等の届出の受理及び雇入契約の確認に関すること。
- ・船員手帳（外国人に係るものを除く。）の交付、訂正、書換及び返還に関すること。
- ・年少船員の認証（船員法第85条第3項の認証）に関すること。

(以上のいずれか3つ)

6. 船員職業安定法 模範解答

受 験 地		受驗番号	
			氏 名

採 点	点
-----	---

1.

ア	イ	ウ	エ
(12)	(7)	(3)	(14)
才			
(4)			

2.

(1)	(2)	(3)	(4)
×	○	○	×
（5）			
×			

7. 船舶職員及び小型船舶操縦者法 模範解答

受 験 地		受 験 番 号		氏 名	
-------	--	---------	--	-----	--

採 点	点
-----	---

1.

ア	イ	ウ	エ
遵守事項	航行の安全	借入人	氏 名
才	力	キ	ク
き 損	早 く	救 命	消 火

2.

ア	イ	ウ	エ
2	戸籍抄本	住民票	海技免状
才	力		
乗船履歴	6月		

3.

- ・酒酔い等操縦の禁止
- ・船外への転落に備えた措置
- ・危険操縦の禁止 等

4.

(1)

×

(2) ①の履歴は、五級海技士（航海）の試験を受けるために必要な乗船履歴としては認められない。
 ②、③の履歴について、法施行規則では、異なる乗船履歴の合算について規定されており、必要な乗船期間に達しない2以上の異なる乗船履歴を有するときは、それぞれの種類の乗船履歴に必要な最短乗船期間の比例により、いずれか最短乗船期間の長い方の履歴に換算して、これを通算することができる。設問の事例についてこの規定を適用すると、総トン数20トン以上の船舶に六級海技士の資格で船長又は航海士として乗り組んだ履歴（種類①の履歴とする）8ヶ月は、総トン数10トン以上の船舶に乗り組みその運航に携わった履歴（種類②の履歴とする）10ヶ月に換算されるので（8ヶ月×種類②の履歴で必要な最低乗船履歴3年／種類①の履歴で必要な最低乗船履歴1年）、当該事例の2つの履歴は通算の結果種類②の履歴2年10ヶ月となり、五級海技士（航海）の試験を受けるのに必要な乗船履歴を有していないことがわかる。

※①の履歴を加算している場合・・・2点

乗船履歴の合算の規定に言及・・・1点

当該規定の合算方法を設問の事例に正しく適用していることが明らか・・・1点

8. 海上運送法 模範解答

受 験 地		受 験 番 号		氏 名	
-------	--	---------	--	-----	--

採 点	点
-----	---

1.

ア	イ	ウ	エ
船舶貸渡業 (海運仲立業)	海運仲立業 (船舶貸渡業)	上限	認可
才	力	キ	ク
船舶運航計画	保険契約	公示	30日以内
ケ	コ		
貨物	勧告		

9. 港湾運送事業法 模範解答

受 験 地		受驗番号		氏 名	
-------	--	------	--	-----	--

採 点	点
-----	---

1.

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
○	○	×	×	×

2.

ア	イ	ウ	エ	オ
⑦	①	⑪	②	⑩

10. 内航海運業法 模範解答

受 験 地		受験番号		氏 名	
-------	--	------	--	-----	--

採 点	点
-----	---

1.

ア	イ	ウ	エ
輸送の安全	公共の福祉	港湾運送	登録
オ	力	キ	ク
内航運送約款	安全管理	安全統括 (運航)	運航 (安全統括)
ケ	コ		
報告	検査		

11. 港則法 模範解答

受 験 地		受験番号		氏 名	
-------	--	------	--	-----	--

採 点	点
-----	---

1.

ア	イ	ウ	エ
整とん (整頓)	雜種船	一定の区域	指揮
才	力	キ	ク
私設	行事	予定時刻	20
ケ	コ		
500	300		

12. 海上交通安全法 模範解答

受 験 地		受験番号		氏 名	
-------	--	------	--	-----	--

採 点	点
-----	---

1.

ア	イ	ウ	エ
ふくそう	伊勢湾	瀬戸内海	航行予定時刻
オ	力	キ	ク
進路を警戒する船舶	指示	6 5	5
ケ	コ		
前日正午 (前日の正午)	1 0 0 0		

13. 海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律 模範解答

受 験 地		受 験 番 号		氏 名	
-------	--	---------	--	-----	--

採 点	点
-----	---

1.

(1)	(2)	(3)	(4)
ハ	イ	口	ハ
(5)			
イ			

2.

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
×	×	○	×	×

14. 船舶法 模範解答

受 験 地		受 験 番 号		氏 名	
-------	--	---------	--	-----	--

採 点	点
-----	---

1.

ア	イ	ウ	エ	オ
7	12	16	22	24
カ	キ	ク	ケ	コ
2	16	22	1	2

2.

ア	イ	ウ	エ	オ
6	1	2	10	2
カ	キ	ク	ケ	コ
25	13	15	18	22

15. 船舶安全法 模範解答

受 験 地		受驗番号		氏 名	
-------	--	------	--	-----	--

採 点	点
-----	---

1.

ア	イ	ウ	エ	オ
臨時航行	船舶検査証書	満載喫水線	遠洋区域	近海区域
カ	キ	ク	ケ	コ
沿海区域	二十四	漁船	従業制限	制限汽圧
サ	シ	ス	セ	ソ
日本船舶	堪航性	人命	船級協会	船級
タ	チ	ツ	テ	ト
旅客船	特別検査	三十日以内	二十人未満	十人以上

16. 船舶のトン数の測度に関する法律 模範解答

受 験 地		受験番号		氏 名	
-------	--	------	--	-----	--

採 点	点
-----	---

1.

ア	イ	ウ	エ	オ
2	3	5	9	12
カ	キ	ク	ケ	コ
16	19	21	26	24

17. 造船法 模範解答

受 験 地		受 験 番 号		氏 名	
-------	--	---------	--	-----	--

採 点	点
-----	---

1.

ア	イ	ウ	エ
拡張	1 箇月	ブロック	50 メートル
才	力	キ	ク
生産状況	鋼製	新造船工程表	2 箇月
ケ	コ		
平均潮高時	85 メートル		

18. 国際航海船舶及び国際港湾施設の保安の確保等に関する法律 模範解答

受 験 地		受験番号		氏 名	
-------	--	------	--	-----	--

採 点	点
-----	---

1.

ア	イ	ウ	エ
所有者	船舶警報通報装置	海上保安庁	船舶指標対応措置
オ	力	キ	ク
国際海上運送保安 指標	乗組員	船舶保安統括者	船舶保安管理者
ケ	コ		
三	船舶保安規程		

平成19年海事代理士口述試験問題及び模範解答

注意： 口述試験の問題についてはテーマです。試験官は、このテーマに沿って出題し、解答例を念頭に置いた質問を実施しました。

【船舶法】

凡例：「法」とは、船舶法をいう。

「則」とは、船舶法施行細則をいう。

「登令」とは、船舶登記令をいう。

問 船舶国籍証書の交付を受けている船舶が譲渡された場合の手続について
(法10、11条、則31、35条、登令4条)

解答例

- ① 新たな所有者（譲受人）は、譲渡人と共同して、
- ② 船籍港を管轄する登記所に、
- ③ 所有権移転の登記を申請しなければならない。
- ④ 登記後、管海官庁に、
- ⑤ 変更登録を申請しなければならない。
- ⑥ 変更登録申請と同時に、
- ⑦ 船舶国籍証書の書換を申請しなければならない。
- ⑧ 書換後の船舶国籍証書の交付を受けたときは、遅滞なく書換前の船舶国籍証書を返還しなければならない。

問 日本船舶を取得してから船舶国籍証書の交付を受けるまでの所要の手続について
(法4、5条、登令4条)

解答例

- ① 船舶所有者は、
- ② 日本国に船籍港を定め、
- ③ 船籍港を管轄する管海官庁に、
- ④ 当該船舶の総トン数の測度を申請しなければならない。
(→測度実施→船舶件名書賛本等交付)
- ⑤ その後、船籍港を管轄する登記所に、
- ⑥ 当該船舶の所有権の保存登記を申請しなければならない。
(→登記→登記済証交付)
- ⑦ 登記後、管海官庁に、
- ⑧ 当該船舶の登録を申請しなければならない。
(→登録→船舶国籍証書交付)

問 船舶国籍証書の交付を受けている船舶の総トン数に変更があった場合の手続について（法9、10、11条、則31、35条）

解答例

- ① 船舶所有者は、
- ② 船籍港を管轄する管海官庁に、
- ③ 総トン数の改測を申請しなければならない。
(→改測→総トン数計算書謄本、変更事項通知書)
- ④ その後、管海官庁に、
- ⑤ 変更登録を申請しなければならない。
- ⑥ 変更登録申請と同時に、
- ⑦ 船舶国籍証書の書換を申請しなければならない。
(→管海官庁から船籍港を管轄する登記所に船舶表示変更登記を嘱託)
- ⑧ 書換後の船舶国籍証書の交付を受けたときは、遅滞なく書換前の船舶国籍証書を返還しなければならない。

問 仮船舶国籍証書の交付を受けられる場合について（法13、15、16、17、19条）

解答例

- ① 外国の港に碇泊中に、船舶国籍証書又は仮船舶国籍証書が滅失若しくは毀損し、又は記載事項に変更があった場合。
- ② 外国に航行する途中に、上記①の事由が生じた場合。
- ③ 日本国内において、船舶を取得した地を管轄する管海官庁の管轄区域外に船籍港を定める場合。
- ④ 外国において船舶を取得した場合。
- ⑤ 仮船舶国籍証書の有効期間を超えてやむを得ない事由がある場合。

問 船舶国籍証書の検認を受けなければならない期日について（法5条ノ2）

解答例

- ① 船舶国籍証書の交付を受けた日又は前回検認を受けた日から、
- ② 総トン数100トン以上の鋼製船舶は4年を、
- ③ 総トン数100トン未満の鋼製船舶は2年を、
- ④ 木製船舶は1年を、
- ⑤ 経過した後、国土交通大臣の定める期日（又は船籍港を管轄する管海官庁により延期された期日）。

問 日本船舶の国籍要件について（法1条）

解答例

- ① 官公序船（国又は地方公共団体の所有する船舶）
- ② 日本人の所有する船舶
- ③ 日本の法令で設立された会社であつて、当該会社の代表者（代表取締役）の全員及び業務を執行する役員（代表取締役を含む取締役）の三分の二以上の者

が日本人であるものの所有する船舶。

- ④ 日本の法令で設立された法人（会社を除く。）であって、当該法人の代表者の全員が日本人であるものの所有する船舶。

問 窓口において登録事項証明書の交付を申請する場合の手数料の納付方法について
(則 51 条)

解答例

- ① 申請書に、
- ② 手数料額に相当する収入印紙を貼付し納付する。

問 窓口において船舶原簿の閲覧を申請する場合の手数料の納付方法について
(則 51 条)

解答例

- ① 申請書に、
- ② 手数料額に相当する収入印紙を貼付し納付する。

問 窓口において船籍港の変更を申請する場合の手数料の納付方法について(則 49 条)

解答例

- ① 手数料納付書に、
- ② 船舶の名称、登録の区分及び手数料額を記載し、
- ③ 手数料額に相当する収入印紙を貼付し納付する。

問 信号符字を点附する船舶について (則 18 条)

解答例

- ① 総トン数 100 トン以上の船舶。
- ② 総トン数 100 トン未満の船舶で、船舶所有者から申請のあったもの。

問 船舶国籍証書を管海官庁に返還しなければならない場合について
(法 14 条、則 35、36 条)

解答例

- ① 船舶登録を抹消した場合。
- ② (記載事項変更又は毀損による) 船舶国籍証書の書換により新証書の交付を受けた場合。
- ③ (外国の港で碇泊中又は外国に航行する途中に船舶国籍証書の毀損又は記載事項変更により) 仮船舶国籍証書の交付を受けた場合。

問 仮船舶国籍証書の有効期間について (法 17、18 条、則 38 条)

解答例

- ① 外国において交付する場合は 1 年以内で、
- ② 国内において交付する場合は 6 ヶ月以内で、

- ③ 船籍港に到着できる期間又は船舶国籍証書の交付を受けることができる期間を標準として管海官庁が定める期間（ただし、船舶が船籍港に到着したときは、有効期間満了前でも効力を失う。）。

【船舶安全法】

問 製造検査が義務付けられているのはどのような船舶であるか述べよ。 (法 6 条①)

解答例

- * 本法施行地において製造する長さ 30 メートル以上の船舶

問 船舶安全法第 6 条第 3 項に基づく検査（予備検査）とはどのような検査か述べよ。

(法 6 条③④、則 22 条)

解答例

- * 法第 2 条第 1 項に掲げる物件であって、命令で定めるものは船舶の特定前であっても検査を受けることができる、検査の合理化制度である。本検査は、船舶所有者または船舶の製造者以外のものであっても受検することができ、合格した事項については、法第 5 条等に基づく検査が省略される。

問 船舶安全法に基づき小型船舶に関する事務を行う検査機関の名称を述べよ。

(法 7 条の 2 ①、法 25 条の 2)

解答例

- * 小型船舶検査機構（日本小型船舶検査機構又は J C I でも可）

問 国際航海に従事する長さ 24 メートル以上の一般貨物船が定期的に受けなければならない中間検査の種類及びその中間検査を受検する時期を述べよ。 (則 18 条②)

解答例

- * (検査の種類) (検査の時期)

第二種中間検査 : 検査基準日の前後 3 カ月以内

第三種中間検査 : 定期検査又は第 3 種中間検査に合格した日からその日から帰算して 3 6 月を経過する日までの間

問 臨時変更証はどのようなときに交付されるか述べよ。 (則 38 条②)

解答例

- * 船舶検査証書の書換申請があった場合において、その変更が臨時的なものであるとき書換に代えて交付される。

【船員法】

凡例：「法」とは、船員法をいう。

「則」とは、船員法施行規則をいう。

問 船員法に規定する「海員」の定義を述べよ。(法2条①)

解答例

* 海員とは、船内で使用される船長以外の乗組員で労働の対償として給料その他報酬を支払われる者をいう。

問 船員法に規定する「予備船員」の定義を述べよ。(法2条②)

解答例

* 予備船員とは、船員法第1条第1項に規定する船舶（日本船舶又は日本船舶以外の国土交通省令の定める船舶）に乗り組むため雇用されている者で船内で使用されていないものをいう。

問 船員が雇入契約を解除することができるはどのような場合か。2つ述べよ。

(法41条①)

解答例

- ① 船舶が雇入契約の成立の時における国籍を失ったとき。
- ② 雇入契約により定められた労働条件と事実とが著しく相違するとき。
- ③ 船員が負傷又は疾病のため職務に堪えないとき。
- ④ 船員が国土交通省令の定めるところにより（学校教育法による学校、（独）海技教育機構または（独）水産大学校）教育を受けようとするとき。

問 外国人の受有する船員手帳の有効期間について述べよ。(則35条②)

解答例

* 有効期間は5年。ただし、地方運輸局長が5年以内の期間を定めた場合においてはその期間。

問 船員法第64条第2項（特別労働）又は同法第64条の2（労使協定時間外労働）により海員を法定労働時間外において作業に従事させる場合であっても、超えてはならない海員の1日当たりの労働時間の限度、及び、1週間当たりの労働時間の限度について述べよ。(法65条②)

解答例

* 1日当たりの労働時間の限度は14時間、1週間当たりの労働時間の限度は72時間。

問 船員法の労働時間に関する規定が適用されない者を2つ挙げよ。(法72条等)

解答例

- ① 甲板部、機関部又は無線部の最上位にある職員で航海当直をしない者
- ② その他①に準ずる者で国土交通省令で定めるもの（事務長）
- ③ 医師
- ④ 専ら看護に従事する者
- ⑤ 船長

問 船員法の有給休暇の規定が適用されない船舶について、2つ挙げよ。（法79条）

解答例

- ① 漁船
- ② 船舶所有者と同一の家庭に属する者のみを使用する船舶（家族船）

問 年少船員の労働を禁止している夜間の具体的な時間帯について述べよ。（法86条）

解答例

* 船舶所有者は、年齢18年未満の船員を午後8時から翌日の午前5時までの間ににおいて作業に従事させてはならない。

ただし、国土交通省令の定める場合（船舶が高緯度の海域にあつて昼間が著しく長い場合及び所轄地方運輸局長の許可を受けて、海員を旅客の接待、物品の販売等軽易な労働に専ら従事させる場合）においてこれと異なる時刻の間ににおいて午前0時前後にわたり連續して九時間休息させるとときは、この限りでない。

問 妊産婦の船員の1日当たりの労働時間について述べよ。（法88条の2の2）

解答例

* 妊産婦の船員の1日当たりの労働時間は8時間以内。

問 常時10人以上の船員を使用する船舶所有者が就業規則を作成する際に、必ず記載することが義務づけられている事項はなにか。2つ挙げよ。（法97条①）

解答例

- ① 給料その他の報酬
- ② 労働時間
- ③ 休日及び休暇
- ④ 定員

【船舶職員及び小型船舶操縦者法】

凡例：「法」とは、船舶職員及び小型船舶操縦者法をいう。

「令」とは、船舶職員及び小型船舶操縦者法施行令をいう。

「則」とは、船舶職員及び小型船舶操縦者法施行規則をいう。

問 定義について（法2条②③、法2条④、則2条の7）

解答例

- * 船舶職員とは、船長、航海士、機関長、機関士、通信長、通信士、運航士
- * 小型船舶とは
 - ① 総トン数20トン未満の船舶
 - ② 総トン数20トン以上の船舶のうち一人で操縦を行う構造の船舶で、スポート又はレクリエーションの用のみに供する長さ24メートル未満の船舶

問 法が適用除外となる船舶について（則2条②）

解答例

- * 長さ3メートル未満及び推進機関の出力1.5キロワット未満の船舶など

問 海技試験（小型船舶操縦士試験）について（法23条の9②、則29条、則37条①、則52条、則53条、則143条⑪、則98条、小型船舶操縦士試験機関を指定した件（告示；平成3年運輸省第396号））

解答例

- * 海技試験を受けるための乗船履歴として認めないものは、試験開始期日からさかのぼり、15年を超える前の履歴など
- * 海技試験の申請書類は、海技試験を受ける地を管轄する地方運輸局を経由して国土交通大臣に提出
- * 手数料の納付は、手数料に相当する額の収入印紙（又は領収証書）を貼付した納付書にて提出
- * 海技試験の筆記試験合格の有効期間は、筆記試験合格日から15年まで
- * 海技試験の筆記試験科目免除証明書の有効期間は、筆記試験開始期日から2年
- * 一級小型船舶操縦士試験を受験できる年齢は、17歳9月以上
- * 小型船舶操縦士試験の申請書の提出先は（財）日本海洋レジャー安全・振興協会（指定小型船舶操縦士試験機関は（財）日本海洋レジャー安全・振興協会）
- * 小型船舶操縦士試験は、身体検査、学科試験及び実技試験

問 海技免許（操縦免許）について（法4条③、法6条①、法23条の4、法17条の2①（法別表第一））

解答例

- * 海技免許講習の種類は、レーダー観測者講習、救命講習、消火講習、航海英語講習など
- * 海技免許の申請は、申請者が試験に合格した日から1年以内にしなければならない
- * 三級海技士（航海・機関）の免許を与えない年齢は、18歳未満
- * 特殊小型船舶操縦士の免許を与えない年齢は、16歳未満

問 海技免状（操縦免許証）の有効期間の更新手続き等について（法7条の2①③、

則9条の3、則9条の5①、則9条の5の3、則79条）

解答例

- * 海技免状（操縦免許証）の有効期間は5年
- * 更新申請ができる期間は、有効期間が満了する日以前1年以内
- * 更新要件は、
 - ①身体適性基準を満たす
 - ②乗船履歴を有する者又は更新講習の課程を修了した者 など
- * 海技免状の更新に必要な乗船履歴は、総トン数20トン以上の船舶に船舶職員として1年以上乗り組んだ履歴 など
- * 更新講習は、更新の申請をする日以前3月以内に修了していなければならぬ
- * 更新期間前に更新の申請ができる場合は、
 - ① 本邦以外の地に更新期間の全期間を通じて滞在する者の場合
 - ② 二以上の海技免状受有者で、一の海技免状が則9条の5による更新申請ができる場合 など

問 海技免状（操縦免許証）の失効再交付の手続きについて（則9条の6、則9条の7）

解答例

- * 失効再交付の要件は、
 - ①身体適正基準を満たす
 - ②失効再交付講習の課程を修了した者

問 海技士（通信・電子通信）に係る免許が失効する場合（法8条②）

解答例

- * 電波法第41条の規程による無線従事者の免許又は船舶局無線従事者証明が取り消された場合

問 二級小型船舶操縦士の資格を有する者が航行することができる区域

（令別表第二備考2、則128条）

解答例

- * 沿海区域のうち各海岸から5海里以内の水域 など

問 小型船舶操縦者以外の乗船（機関長の乗船）

（法 23 条の 35 ①、令 11 条①、則 125 条）

解答例

- * 沿海区域の境界からその外側 80 海里以遠の水域（海岸から 100 海里以遠）を航行する場合 など

問 海技免許の限定の種類（法 5 条②～⑥）

解答例

- * 履歴限定、（船橋・機関）当直限定、機関限定 など

問 操縦免許の限定の種類（法 23 条の 3 ②、法 23 条の 11（法 5 条⑥準用）、則 68 条、則 69 条）

解答例

- * 技能限定、設備等限定 など

問 平成 15 年 6 月以前の免許について（法 14 年経過措置政令 1 条）

解答例

- * 旧四級小型船舶操縦士の免許は、現在、二級小型船舶操縦士及び特殊小型船舶操縦士とみなされる

問 海技免許の取消し等をすることができる場合（法 10 条）

解答例

- * 船舶職員及び小型船舶操縦者法又はこの法律に基づく命令の規定に違反したとき
- * 船舶職員としての職務又は小型船舶操縦者としての業務を行うに当たり、海上衝突予防法その他の法令に違反したとき など

問 乗組み基準の特例が認められる場合（法 20 条、則 63 条）

解答例

- * 船舶が特殊の構造又は装置を有していること
- * 航海の態様が特殊であること など

問 小型船舶操縦者の遵守事項（法 23 条の 36）

解答例

- * 酒酔い等操縦の禁止
- * 自己操縦義務
- * 危険操縦の禁止
- * 船外への転落に備えた措置（救命胴衣の着用） など